

実装技術シンポジウムを開催 ユビキタスを支える次世代JISSO技術を「かながわ」から

産業界と大学との「オープンなイノベーション創生の場」の産学交流イベント

11月22日(火)教育文化ホールで本学主催により開催されました。

実装技術とは半導体IC等の電子部品をプリント配線板上に搭載し相互接続をして電子回路を構成する技術のことであり、この分野は今まで企業が主導し世界をリードしてきました。しかし、ユビキタス時代を向かえ実装技術が高度化するに伴い、産学協同の取り組みによる技術のブレークスルーが求められております。

これを受けて、本学では平成14年度に組織した「実装技術懇談会」が「よこはま実装研究クラブ」に発展、この会を更に「よこはま高度実装技術コンソーシアム」へ発展させるべく今回は企業関係者の参加を得て現状のニーズを把握するためのイベントを開催することとなりました。

当日は学内外計210名の参加を頂き、「NPOサーキットネットワーク」理事 本多 進氏(本学のOB)の基調講演「実装技術の狙うべき方向と技術課題」や本学研究院の研究者を中心に34テーマを紹介したポスターセッションを行い熱心な討議がなされました。



会場全体の様子

工学研究院の4つの学際プロジェクト研究に関する 学生企画の公開セミナー

常盤祭期間中の11月5日(土)に中央図書館メディアホールにおいて、「未来環境」をテーマにオープンラボ(アカデミックサイト)が開催されました。

オープンラボ風景



学生にとっては授業で接するだけの先生がどのような研究を行っているのか知る機会はありません。特に低学年の学生の目には先生は退屈な授業をやる人として映っていません。また同じ大学に在籍しているながらこの大学がどのようなアクティビティをもっているのか学生達にはインフォメーションはありません。そこで、学生に研究の好奇心を持ってもらうために、大学院生が中心になり、お互いの研究領域を探訪するという研究発表会が開催されました。

専門分野以外の人からみてもたいへんわかりやすい発表で、非常に面白かったとの好評をいただきました。